

## VIPO、成立記念式典と通常総会を開催

～「日本の映像産業発展のために」と迫本理事長

映像産業振興機構(VIPO)は6月1日にNPO法人として成立したのを受けて、7月6日、成立記念式典と2005年度通常総会を経団連会館で行いました。



VIPO成立記念式典・通常総会(東京・大手町)

TBSニュースキャスター小倉弘子さんによる司会・進行で始まった記念式典では、挨拶に立った迫本理事長が、VIPO成立にあたって感謝の意を表明したあと、VIPOが関わる事業を説明しました。理事長は文部科学省による公募である科学技術振興調整費にVIPOが斡旋した九州大学と、デジタルハリウッド大学院大学が委託研究事業として採択されたことを指摘しました。また文化庁からは韓国での「日本映画上映」事業も委託されています。

理事長はさらに、経済産業省からは「コンテンツ人材育成・インターンシップ産学マッチング推進」事業を委託されていると説明し、商業映像政策の現場に映像系学部の学生のインターンシップを行うことを始めていると述べました。これに加えて、東京国際映画祭(TIFF)の開催期間中に行われる「国際共同製作の映像製作企画マーケット運営事業」について、VIPOは経産省から委託されていて、アジアの国々と

の共同製作を実現する準備にかかっていることも紹介しました。

理事長は「初めての組織ではあるが、日本の映像コンテンツ産業を国際競争力のある産業に育てたい」という抱負を述べて、挨拶を結びました。

一方、来賓の経済産業副大臣の保坂三蔵氏は挨拶のなかで、「コンテンツは経済活性の面でも重要であると指摘し、2010年には17兆円規模の市場になるよう、施策に取り組みたいという意欲を示しました。副大臣は今後、「官民が連携してコンテンツが日本のリーディング・インダストリーになることを期待している」と述べたうえで、映像産業振興機構の今後一層の発展を願うと語りました。

このあと、自民党コンテンツ産業振興議員連盟会長の甘利明氏、文部科学大臣政務官の小泉顕雄氏、内閣官房知的財産戦略推進事務局長の荒井寿光氏、総務省大臣官房政策統括官の清水英雄氏、日本経団連産業問題委員会エンターテインメント・コンテンツ産業部会の依田巽会長が応援スピーチをしました。

その後の第1回の通常総会では、法人設立準備期間中の活動報告と収支報告、2005年度の事業計画の一部変更などが承認されました。 (了)